

## メタルドゥ

# 電池リサイクル本格参入

## 月400トン処理体制を整備

特金スクラップ問屋  
のメタルドゥ(本社)  
大阪市浪速区、山瀬敏  
彦社長)は今期(20

19年2月期)電池リ  
サイクル事業に本格参  
入する。リチウムイオ  
ン電池スクラップ処理  
の新たな仕組みを導入  
して、月間400トンの  
処理可能な体制を整  
える。スーパーアロイ

(特殊耐熱合金)  
の扱い量も5割増を今  
期目標とする。  
同社はニッケル、コ

バルト、チタン、タンク  
スアン、タンタル系な  
どの特金・レアメタル  
スクラップを扱う大手  
問屋。国内3カ所(大阪  
・神戸・東京)にヤード  
を持ち、1st物流セ  
ンター(大阪市此花区)  
において使用済みのリ  
チウムイオン電池やニ  
ッケル水素電池、スー  
パーアロイやチタンス  
クラップの加工処理な

どを行っている。  
リチウムイオン電池  
スクラップは国内外の  
大手電池メーカーの工  
場発生物を扱ってい  
る。塩水浸漬によって  
放電処理を行い、鉄鋼  
添加用などへ出荷して  
いるが、今期は処理効  
率を上げる新たな仕組  
みを取り入れて事業を  
本格化する予定で、1st  
物流センターのレ

イアウト変更や増員を  
考えている(山瀬社  
長)。  
電気自動車(EV)  
向けの車載用などでリ  
チウムイオン電池需要  
は世界的に急拡大して  
おり、電池の高容量化  
のためニッケルやコバ  
ルトを使った正極材が  
主流となっている。中  
でも希少性の高いコバ  
ルトの国際相場は、こ

こ2年間で約4倍に高  
騰。電池スクラップの  
資源価値も高まってい  
る。  
1st物流センター  
ではスーパーアロイの  
スクラップを、プラス  
マカット、アリゲータ  
ーシヤ、シヨットア  
ラストマシンなどの加  
工設備を用いて処理  
し、再溶解用として海  
外の最終インゴットメ

ーカーに供給してい  
る。  
昨年にはシヨットア  
ラストマシンを増設し  
て、加工体制を強化。  
スクラップの高付加価  
値化を目標に掲げる今  
期は、前年度の5割増  
への引き上げを図る。  
また、昨秋に破砕ライ  
ンを新規導入したチタ  
ンスクラップの加工量  
増量も目指す。